

八重山地域の農業と普及



沖縄県八重山農林水産振興センター 農業改良普及課

〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里438-1 沖縄県八重山合同庁舎2階

TEL(0980)82-3497 FAX(0980)83-4142

<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/norin/norin-yaeyama-nokai/index.html>

与那国駐在

〒907-1801 沖縄県与那国町与那国125

TEL(0980)87-2354 FAX(0980)87-2354

I 安定的な農業の担い手育成

1 農業経営体の育成

経営改善に意欲的な認定農業者等を対象に、市・町・JAと連携した複式簿記の演習、経営診断や各種講演会などの農業経営講座を開催し、効率的かつ安定的な農業経営体の育成を支援している。

2 新規就農者の育成確保

将来に向けた農業の担い手の育成を目的に、青年農業者、新規就農者等に対し就農支援講座を開催し、農業の基礎に関する講習会や現地研修会を通して技術習得を図っている。

3 農業担い手組織の育成

就農青年組織として、石垣島ファーマーズクラブ、黒島農業青年クラブ、西表島農業青年クラブ及び与那国町農業青年クラブがあり、また地域の自主的な組織として、八重山地区農業士等連絡協議会及び農業機械士協議会八重山支部、八重山地区農山漁村女性組織連絡協議会があり、リーダー育成と事業活動を支援している。



II おきなわブランドの確立に向けた産地育成

年平均気温24.3℃(石垣市)という温暖な気象条件を活かして、さとうきび、肉用牛、超早場米、熱帯果樹、熱帯花き及び冬春期野菜が生産されており、製糖工場、出荷団体、市町の産地協議会と連携して技術指導や生産拡大に向けた取り組みを実施している。特に重要な品目については、県拠点産地の認定と育成に向け取り組んでいる。

1 野菜

八重山地域の野菜生産は、平成5年のウリミバエ根絶を契機に、スイカ、カボチャ、オクラ、サトイモ等、本土端境期の県外出荷を中心に伸展してきた。平成29年産主要品目(オクラ、カボチャ、ゴーヤー、インゲン)の作付面積は約36haで、県外出荷向けの生産が行われている。

平成18年に石垣市のオクラが、平成26年に竹富町のカボチャが拠点産地に認定され、生産拡大と八重山ブランドの確立に向けて、JAと共に栽培講習会や現地検討会を実施し、単収向上と新規生産者の育成に取り組んでいる。



2 果樹

パイナップルは排水の良好な酸性土壌を好み、八重山地域は適地である。平成29年産の収穫面積は約124ha、出荷量は約3,580tである。主要品種は、ハワイ種、ソフトタッチ、ポゴールで、市町、JAと連携し新たにジュリオスターやゴールドバレルの普及および輪切り増殖による種苗生産にも努めている。また、新品種の沖農P17「サンドルチェ」が注目され始めている。平成19年に石垣市、平成20年に竹富町が拠点産地に認定されている。

マンゴーは結果樹面積が23ha程度で推移しているが、収穫量は年次変動がある。平成20年に発足した八重山マンゴー研究会では、栽培技術の向上と安定出荷のための勉強会や現地検討会を共催し、単収と品質の向上を支援している。



パイナップル



マンゴー



現地検討会

3 花き

花き生産は、温暖な気候を活かし、レッドジンジャー、ヘリコニア、洋ラン、切葉類等の夏季県外出荷品目を中心に取り組みされており、平成27年の花き栽培面積（石垣市）は12haである。レッドジンジャーとヘリコニアは県内有数の産地であり、平成19年に熱帯花きの拠点産地に認定され、高品質で市場からも高い評価を得ている。

洋ランについては、平成24年に結成された八重山洋ラン研究会を中心にデンファレ、エピデンドラム、オンシジウムの品目の複合化、栽培管理技術を支援している。



レッドジンジャー



ヘリコニア



現地検討会

4 水稲

八重山地域は、県内稲作の主要産地である。平成29年の水稲作付面積は一期、二期合わせて496ha、収穫量は1,420tで、それぞれ県全体の68%、65%を占めている。温暖な気候を活かし一期作では5月下旬から出荷が始まる「超早場米」を生産している。主要品種は、食味に優れた



現地検討会



エコファーマー講習会

「ひとめぼれ」であり、黒紫米や低アミロース米の生産もみられる。

消費者の食の安全への関心の高まりもあり、エコファーマー認定など、多様な消費者ニーズに対応した米作りへの支援を行っている。

5 さとうきび

さとうきびは、分蜜糖と含蜜糖（黒糖）の原料となり、その経済波及効果は4倍程度といわれ、離島地域においては重要な品目である。近年、八重山地域のださとうきび生産は、収穫面積が1,900ha程度で生産量が約120,000tであり、単収向上が最優先課題である。

このため、各作型に応じた適期肥培管理の徹底、特にメイチュウによる被害は生育初期の発芽・萌芽不良と生育旺盛期の台風時折損の要因となることから、適期防除を推進し、収穫面積の拡大と安定生産のため、複合株出管理機を活用した早期作業を推進している。



現地検討会

6 畜産

八重山地域における畜産は、肉用牛の飼養頭数が約3万頭で県内の約40%を占めている。特にセリ市場がある石垣市と竹富町黒島は素牛供給産地となっている。石垣市は、平成20年に子牛と肥育牛の拠点産地に認定されており、石垣牛ブランドとして確立されつつある。

当課では、制度資金借入農家や後継者を対象に、飼養管理技術の向上や粗飼料の生産・利用効率化等を支援している。



講習会

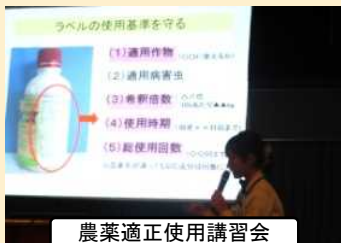


現地検討会

Ⅲ 環境と調和した農業生産

環境負荷軽減に配慮した安全・安心な農産物の生産を市町やJAと協同で支援し、環境保全型農業の推進（畜産を含む）を図っている。具体的には、農薬適正使用の推進、生産履歴の

記帳指導、肥料や農薬の低減等に取り組むエコファーマーの認定や特別栽培農産物の認証、環境三法の順守、さらにIPM（総合的病害虫防除）やGAP（農業生産工程管理手法）の支援等、実態に応じた対応に努めている。



農薬適正使用講習会



エコファーマー認定式

Ⅳ 地域資源活用による農村振興

地域資源の加工活動に取り組むグループ等を対象に、6次産業化の推進を支援するため、アグリチャレンジ講座を開催している。調理や食品加工、食品衛生管理等についての講習会を実施しており、今後も、農産加工技術をはじめ、起業に必要な情報提供を行う。



アグリチャレンジ講座

V 活動体制

八重山農林水産振興センター

農業改良普及課

普及企画班 地域調整、担い手（新規就農・拠点産地育成）（農村青少年等）（男女共同参画）、農業経営、特産物

農業技術班 普通作物（特用・薬用作物）、さとうきび、野菜、花き、水稻、果樹、畜産

与那国駐在